

# KTSM in 気仙沼 ～実技セミナー基礎コース in 気仙沼～

2013年11月16日(土)気仙沼市立病院にて開催

今回、気仙沼市立病院にて、第1回実技セミナー基礎コースを開催致しました。本セミナーは、口腔ケア、スクリーニング評価、食事介助についての基礎を学び、各々のスキルアップにつなげられるよう企画致しました。以下に、第1回実技セミナー基礎コースの概要を報告致します。

参加職種	
医師	1
看護師	26
介護職	5
管理栄養士	2
歯科衛生士	4
言語聴覚士	1
薬剤師	3
合計	42名

都道府県別参加者数	
宮城県	38
秋田県	2
東京都	1
千葉県	1
合計	42名

## 講師・アドバイザー一覧 <敬称略・五十音順>

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
安西秀聡	イムス三芳総合病院	医師(日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士)
一瀬浩隆	山谷歯科医院・東名厚木病院	歯科医師
小野寺裕子	特別養護老人ホーム恵潮苑	看護師
小山珠美	東名厚木病院	看護師(日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士)
佐藤さと子	気仙沼市立病院 NST 室	看護師
谷恭子	谷歯科医院	歯科衛生士
中村悦子	市立輪島病院	看護師
三束梨沙	気仙沼市立病院	言語聴覚士
山崎綾子	気仙沼市立病院	管理栄養士

オブザーバー：成田徳雄(気仙沼市立病院 脳神経外科 医師)

会場ボランティア：7名(気仙沼市立病院)

～ 口 腔 ケ ア 実 習 ～



水を使った口腔ケアが重要！



非利き手での口腔ケア！

～ ス ク リ ー ニ ン グ 評 価 実 習 ～



しっかり見せることがポイント！



上手くすくえるかな？

～ 食 事 介 助 実 習 ～



しっかり見せて下さいーい！



角度を上げて自力摂取可能か判断！

# 気仙沼実技セミナー アンケート集計結果に関する報告

11月16日（土）気仙沼市立病院にて開催

参加者数：42名 アンケート回答者数：40名（回収率：95.2%）

## Q1. 職種と勤務先（都道府県別）

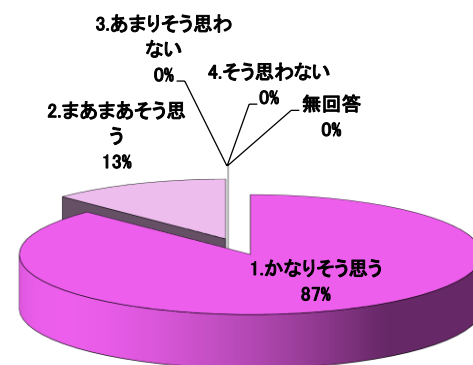
職種	
医師	1
看護師	22
看護教員	1
介護職	6
管理栄養士	2
歯科衛生士	4
言語聴覚士	1
薬剤師	3
合計	40

勤務先（都道府県別）	
宮城県	36
秋田県	2
千葉県	2
合計	40

## Q2. セミナーの内容はスキルアップにつながったか？

1. かなりそう思う	35
2. まあまあそう思う	5
3. あまりそう思わない	0
4. そう思わない	0
無回答	0
合計	40

セミナーの内容はスキルアップにつながったか？



### <理由>

1. かなりそう思う（未記入10名除く）
  - ・ 口腔ケアや食事介助など今まで行なっていた自分の技術や知識がいかにあさはかで、間違っていたものであったかと気づかされた。本日の学びを今後のケアに生かしていけるようにしたい。
  - ・ ポジショニングや食事介助、口腔ケアの基本的な正しい方法を学ぶことが出来た。

- ・ MWST、FT は今まで実際に行なったことがなかったが、本日は実際に指導を受けながら行なうことができたため
- ・ 食介に関わることは少ないのですが、目線を食事に合わせ、下げてもらうというのは大変勉強になりました。
- ・ 食べるために口腔ケアや食形態だけでなく、姿勢や介助者のスキルが大切なことが分かりました。
- ・ 段階的なスクリーニングの評価法等初めて学びました。口から食べるための最初の大切な評価であり、食事形態の決定のためにも大切でありスキルアップにつながりました。
- ・ 改めて確認できた。忘れていた事もあり、さらにお客様の目線、気持ちになれた。今までがちょっと恥ずかしい介護だったと感じた。
- ・ 実体験は初めてでしたので驚きもあり、有意義でした。
- ・ 病棟の関係上、食事介助やベッドサイドでのスクリーニングを行なう機会が少ないので、大変良い学びになりました。
- ・ これまで学んだ技術の再確認と自力摂取時のスプーンアシストなどの新しい技術の習得ができました。
- ・ なぜ、そのような形の援助をしなければならないのか。エビデンスの部分の明確になり、思考しながら援助することで実践へ活用できるものとなったと思う。
- ・ 口への運び方、ポジショニングなどとても役立ちました。
- ・ 自分にやりやすい形で、介助をしていたと思った。体験することでスキルアップにつながったと実感した。
- ・ 脳外科病棟にいるので摂食での2人には、個人的には指導受けたいと思いましたので、良いチャンスだったと思います。
- ・ 実技があったことで実際の手技が良く理解できた。
- ・ 食べさせる向きなど以前よりは考えていたつもりだったが、今回のセミナーを通してまだまだ足りないと感じました。
- ・ 介助される側が感じることを体験できたので、今後気をつけて介助を行いたいと思います。
- ・ 普段、臨床での行為は無いが、演習で実技を学べてよかった。
- ・ なぜ、口腔ケアが必要なのか。基本的なことから考えさせられた。
- ・ 口腔ケア、食事介助時のベッドサイドスクリーニングがいかに大切かがわかった。食べることが離床へつながる。
- ・ 体位の整え方やケアの仕方など、自分の口から食べられるようになるためには様々な技術を複合的に使用していかなければならないと感じ、知識が深ま

りました。

- ・ 患者側をすることで苦痛なことが多く理解を深めることが出来た。
- ・ 間違った水分テストをしていたと気づかされました。咳き込み＝ムせていると思って絶飲食になった患者様もいました。
- ・ ポジショニングや適切な口腔清拭。今後に活かします。
- ・ 知らなかった技術は勿論、知っていたはずの技術でも、「ここまで意識していなかった」と思う部分があり、大変勉強になりました。

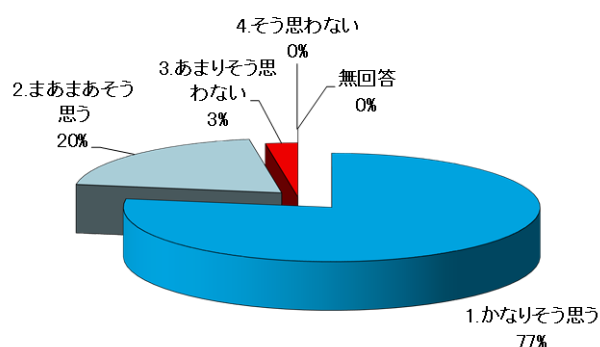
## 2. まあまあそう思う（未記入3名除く）

- ・ 普段の業務の中では体験できない分野であるため貴重な体験でした。
- ・ 患者さんの立場に立ったケア方法があり、役立ちそうです。

## Q3. セミナーの内容は実践の場で活用できるか？

1. かなりそう思う	31
2. まあまあそう思う	8
3. あまりそう思わない	1
4. そう思わない	0
無回答	0
合計	40

セミナーの内容は実践の場で活用できるか？



### <理由>

1. かなりそう思う（未記入なし）
  - ・ 食事介助時（全介助・部分介助）、セッティング方法などすぐ実践に生かしたい。
  - ・ 口腔ケアや食事介助、嚥下状態のよくない患者さんの嚥下評価ポジショニングなど
  - ・ 毎日の食事介助に生かしていきたい。また、他職種にも伝えられるよう、自分自身も復習して確認し実践していきたい
  - ・ 毎日の食事介助場面や経管栄養の方の口腔ケア
  - ・ ため込んでしまうお客様に対しての促し方法がわかったので、実践してみたいと思います。
  - ・ 食事介助をする機会が増えているので、実際に食事介助を行う際に、今回学

んだことを活かしながら行なって生きていきたいです。

- ・ 今後の食事介助に活かしていきたいと思います。また、ひとつひとつの手順（食物をみてもらう、手の角度等）意識しなければ、つい抜けてしまうことがあり、もっと技術をみがいていかなければならないと感じました。
- ・ 食事がなかなか進まない方、手を添えてあげればご自分で摂取可能な方等、あと少しを手伝っていきたい。
- ・ 地域医療に関わる中で、現物の理解は必要であり、今後重要になると思います。
- ・ 食事介助や口腔ケアが必要な患者様が普段病棟にはあまりいないのですが、内科など他科の患者様、ターミナル期等の患者様の看護に活かしたいと思います。
- ・ 今後、部署移動などで食事介助をする機会が増えると思うので、今回の学んだことを復習し身につけておきたいです。
- ・ 口腔ケアに関し、アドバイザーよりケア用品の適切な使用方法や注意点を具体的に指導して頂いた。注水など施設で行っていない事も行っていきたいと思います。
- ・ 日常の患者さんへの食事介助場面など
- ・ 臨床の場で看護師さんや助手さん方へアドバイスするための根拠を説明しやすくなったためです。
- ・ 誤嚥性肺炎で入院し次の食事開始がなかなか進まず食べさせ方が悪くついつい胃ろうになってしまう。
- ・ 食事介助の場面で活用できる場が広がると思う。施設だと CW では吸引を使用できないため、施設の今後のあり方も含め考えていけたらと思う。
- ・ 気仙沼で開催していただいて、良かったと思います。
- ・ 内科病棟で脳梗塞の方や高齢で衰弱している方等多く食事に関してムセたらすぐ食止めしたりしていたが、少しずつテストや訓練などのアプローチが患者さんの為になり食べれるようになるのだと学び、ぜひ Ns サイドでも実践していきたいです。
- ・ 入院患者の大半が嚥下に障害をもつ方なので、スクリーニングと摂食サポートを行なう際に活用できると思いました。
- ・ 日々の業務で実践していけるとと思います。ICU ブラシなどは物品としてないのですが、基本的な口腔ケアの方法、ブラッシング、水の流し方など活用していきたいと思います。
- ・ 食事介助前のポジショニングのときに隙間を埋めて安定した姿勢にしてあげたいと思いました。

- ・ 実践①～③共に施設で行なっておりますが、自分たちの曖昧さ適当さに反省させられた。
- ・ 脳外科病棟勤務のためポジショニングや口腔ケアにいつも悩んでいましたが、1つでも要素が欠けていても、よりよい摂食にはつながらないということ学びました。
- ・ 寝たきりの患者が多く肺炎を起こしやすい状態である。本日は口腔ケア、食事摂取時のスクリーニングとても勉強になりました。
- ・ 個人個人違いますが、現在行なっている方もいます。
- ・ 姿勢不良の利用者が多いため、バスタオルなどを使用し良肢位に努めていきたいと思った。
- ・ 水分テスト、食事時のポジショニング作成、口腔ケア
- ・ 正しい水分テスト、評価で安全に食事を開始できると思います。今までムダにムセだけで絶食にしていたかと思うと患者さんに申し訳ないです。
- ・ 病棟での口腔ケア
- ・ 食べこぼしの多い方への対応が、職場ではできていないままであるケースがいくつかあり、今回学んだことを活用する余地が沢山あると感じました。
- ・ 在宅での摂食嚥下リハに活用

## 2. まあまあそう思う（未記入1名除く）

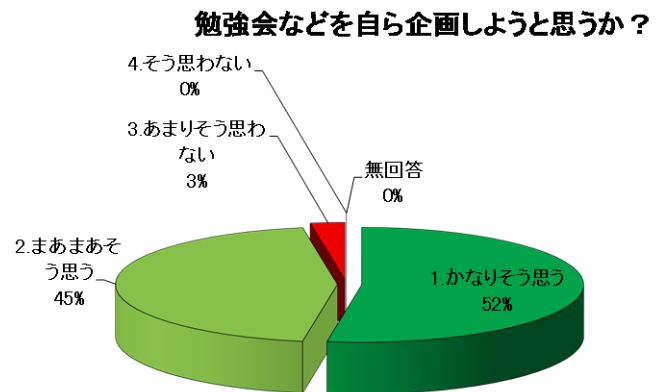
- ・ 患者さんで食事介助やセッティングが必要な方が多いので、今回の学びを活かして生きたいです。
- ・ 今後の食事介助の際に活用できると思います。今までは左側からでも右手で行なっていたので、左手も使って介助できるようにしていきたいです。
- ・ 介護用品を買ったり、薬の販薬指導の際に役立てない。
- ・ 患者からの質問（問い合わせ）へのアドバイスの参考になった。
- ・ 学生に食事介助の授業をするとき、実践に役立つ。
- ・ 実践する場にはいないため
- ・ 仕事に役立てます

## 3. あまりそう思わない（未記入なし）

- ・ 外来専門のため、なかなか病棟の患者さんにケアを行なうことが少ないため

#### Q4. 勉強会などを自ら企画しようと思うか？

1. かなりそう思う	21
2. まあまあそう思う	18
3. あまりそう思わない	1
4. そう思わない	0
無回答	0
合計	40



#### <理由>

##### 1. かなりそう思う（未記入3名除く）

- ・ 病棟スタッフに伝達し、スキルアップにつなげたい
- ・ 病棟での伝達講習を企画したい
- ・ 今後、特養処遇職員会議内で行なう予定
- ・ 一人でも多くの口から食べていただくため、施設でも勉強会を開き、職員のスキルアップを図っていきたいと思います。
- ・ 施設のほかの職員にも是非学んで欲しいと思います。
- ・ 施設の会議内で実施したいと思います。
- ・ 本日得た技術を職員全体で学ぶ機会を設けていく。
- ・ 今回実施して頂いたお陰で自分は参加出来たと思う。
- ・ せめて部署のスタッフに理解させたい。
- ・ 勉強会をやっていきたいと思うが、1人アドバイザーの方が一緒にしていただけると伝えるもの助かると思う。
- ・ 病棟勉強会で伝達講習を実践したいと考えています。
- ・ 一瀬先生には、毎週回診に加えて、研修も実施していただいています。
- ・ 個々でスキルアップするのではなく病院全体のスキルアップにつなげたいと思う。
- ・ 機会があれば
- ・ 日々間違った介助法ばかりに気付かされ、修正が必要だと感じた。
- ・ 病棟に戻り伝達講習をし、皆さんに興味をもってもらい、少しでも患者様になることを広めたいと思います。
- ・ 以前から、食事姿勢に重点を置いた研修を企画しておりました。今回学んだこともフندانニ盛り込み開催したいと考えております。
- ・ 勤務先（院内）



2. まあまあそう思う（未記入7名除く）

- ・ 今日、学んだことを施設に帰り、他職種に指導していきたいと思いました。
- ・ 何人かで行なえればよいと思う。
- ・ 病棟で伝達講習予定ですので、病棟スタッフに分かりやすいよう資料づくりなどに勤めたいと思います。
- ・ 病棟内での伝達講習が予定されています。
- ・ 宮城県の ST 協会での勉強会に提案してみたいです。
- ・ 病棟での伝達が予定されています。
- ・ 後輩への指導を行なう。
- ・ 自分ひとりが先に立って…というのは難しいのですが、他に一緒に行なう方たちがいれば協力して行なってみたいと思います。
- ・ 地域ニーズがあれば、主催したい。
- ・ 一人でも完璧に伝えられるかどうかはこの1回だけでは不安がありますが、少しでも病棟内で伝達できることがあればよいと思います。
- ・ 施設の上の方々がどう思うかの考えの違いもありますので…

3. あまりそう思わない（未記入）

Q5. 今後、取り上げて欲しい内容は？（未記入24名除く）

- ・ 今回、自分にとって食事介助の方法など新しい方法を学ぶことが出来てよかった。これからも良い方法、介助に仕方などがあったら学びたいと思いました。
- ・ 啓蒙活動も必要かと思います。
- ・ いろいろな食事形態（全粥、三部粥、軟菜食、塩分せんべいなど）を食べ比べしたい。
- ・ 栄養管理面からもアプローチを考えていくことについて学んだ。
- ・ 両上下肢の拘縮や重度の円背、頸部の安定しない方へのポジショニング方法です。
- ・ ごっくん体操や口の運動
- ・ 個別のケース（障害別の）経時的変化とそのサポートを教えていただくと嬉しいです。
- ・ 薬の飲み方
- ・ 家族での調理でペーストをつくること
- ・ 前傾や覚醒不良の実践をもっとくわしく

- ・ 開口困難な方への口腔ケア・食事介助
- ・ 相互実習の時間をもっと多くして欲しい
- ・ 本日学んだこと以外
- ・ 具体的な（患者さんがモデル）になった勉強会
- ・ 他にも多くの事例を見る機会があればと思います。